

# 平成21年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ ミヤカワ ジュウジ  
氏名 宮川 充司

研究期間 平成21年度

研究課題名 中近世の絵画史料でよむ日本人の生涯発達観

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	宮川 充司	教育学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

中世末から近世にかけての日本人の生涯発達観を分析するのに、熊野観心十界曼荼羅と呼ばれる絵画史料に着目して分析を行ってきている。新発見の絵画史料を含めると現在までに37点ほど所在が知られている。この研究分野における基本的な分類枠組みが小栗栖健治氏により提案された2004年以降新発見のものや精密学術調査が行われていないものを中心に、現本の実地調査を計画するとともに、この絵画史料諸本の画像データの整備を進める。近年新発見された史料や現本調査を行っていない諸本を中心に調査分析を行い、この絵画史料の変遷を分析・検証する。

### 2. 研究方法等 (300字以内で記述)

熊野観心十界曼荼羅を巡る研究領域において、最も基本的な分類枠組みとなっている小栗栖(2004)の論文以降、発見確認された熊野観心十界曼荼羅とそれ以前に知られていながらも学術的な調査が不十分もしくは未調査の諸本について、所有権者の了解を得て、原本調査を行った。これらの諸本はいずれも、特殊で貴重な民俗史料であるため、他機関に所属する文化財保存・宗教民俗学といった専門家との共同による学際調査を基本とした。これらの調査対象とした諸本は、新発見の諸本で龍洞寺本・長保寺本(ともに岐阜県可児市)、長命寺穀屋寺本(滋賀県近江八幡市)、天福寺本(香川県高松市)、既知の諸本については佐渡後藤本(新潟県佐渡市)と紀三井寺穀屋寺本(和歌山市)が調査対象となった。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

**2004年3月以前から所在が知られていた諸本の再調査**：2004年以前から知られていたが、学術的な調査が不十分もしくは未調査の諸本について、原本調査を行った。

佐渡織田常学院旧蔵本、通称佐渡後藤家本の熊野観心十界曼荼羅と那智参詣曼荼羅とその関連資料。原本調査を行ったところ、これまで全く知られていない貼り紙が1枚新たに発見された。同じく織田常学院旧蔵本の那智参詣曼荼羅で、現在相川郷土博物館本として知られているもの。関連して、文政古地図にある織田常学院の旧所在地（佐渡市大工町）について現地調査を行ったが、推定される跡地は昭和33年頃に行われた道路拡張工事のため、2/3程度は既に道路となりごく一部の敷地のみが辛うじて残されていることが分かった。ただし、全体として佐渡金山で働く鉱夫の長屋の一角似すぎなかったことが推定できた。

紀三井寺穀屋寺本については、以前から所在は知られていたものの直接的な原本の調査がされていないものであったが、ようやく原本調査の許可が所有者から出され調査することができた。公開されていなかったのは、後代の補修の際に描き込まれた猥褻な表現が寺として憚れた為ではないかと推定できた。

**2004年4月以降所在が知られた諸本の調査**：新発見の諸本で龍洞寺本・長保寺本、長命寺穀屋寺本、天福寺本について原本調査を実施した。龍洞寺本は、定型本甲系統IV形式のものと分類できるものであるが、対となっている那智参詣曼荼羅は類例のない後代の模写本または別本と判断できた。長保寺本は、発見例の多い乙系統VIII形式のものと判断できた。一方、2009年5月頃に発見された長命寺本は、2点が別本と分類でき、同時発見の長命寺参詣曼荼羅3点とともに、折り畳み表具（仮称）という元の状態を留めた学術的にも貴重なものであるが、これらについては分析結果は第一発見者の報告書等の公開以降となる倫理上の制約がある。天福寺本は、袈裟状の紙継ぎの様式を含めて乙系統VII形式の模写本と判断できる。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①熊野観心十界曼荼羅	②原本調査	③画像分析	④
⑤	⑥	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

宮川充司 熊野観心十界曼荼羅とそのルーツ (VI) — 新出諸本の分析 椋山女学園大学研究論集 (人文科学篇), 2010, 41 (印刷中) .

今後の研究成果公開予定

宮川充司 熊野観心十界曼荼羅とそのルーツ (VII) 椋山女学園大学研究論集 (人文科学篇), 2011, 42 (投稿予定) . 等。 他は未定。